

## 川崎市における注目すべきハチ類の記録

Notable Wasps and Bees in Kawasaki

雛倉正人

Masato Hinakura

### Abstract

From 2006 to 2009, specimens of wasps and bees were collected mainly in the northern district of Kawasaki City. Among the identified 34 species in the present study, eight species were recorded for the first time in Kawasaki City. Biological aspects of the Hymenopteran species : their visiting flowers, preys, nesting habitats, etc. were also mentioned.

### 緒言

筆者は、川崎市自然環境調査において、甲虫・直翅・トンボなどの昆虫の記録を残してきたが、今回は、筆者が市内で採集したハチ類について、新規の種や地点を含むもの・同定の容易でない種を中心に報告したい。

ハチという昆虫は、幼虫の餌として花粉や蜜を集めるもの・狩りをするもの・寄生をするもの・幼虫が植物の葉を食するものなど多様であり、営巣生態も、単独性から社会性までさまざまである。ハチ類は、種類によっては植物の花の受粉に不可欠なものである。狩りを行う種は餌が特化しており、生態系内では他の昆虫の天敵として重要な位置を占める。また、種によって特有の自然物や人工物を、営巣場所として巧みに利用している。こうした興味深い昆虫であるにもかかわらず、種の判定が難しく情報も少ないことから、地域の生物相調査の中では解明が遅れがちで、川崎市内の近年のまとまった報告は少数であり、沢山の種が記録されているのは生田緑地など一部の場所に限られている(脇, 2003; 脇, 2004)。また刺すという先入観から、有害生物として敬遠されることもある。そこで本稿では、種の生態や分布に関する知見を必要に応じて記し、残り少なくなった都市周辺の生物の多様性理解に資することにした。

### 調査方法

すべて見つけ採り法による。但し、特別な営巣環境や花を狙って探した場合がある。

### 調査結果

標本は、川崎市青少年科学館に保管されている。種名に#をつけたものは筆者同定、無印のものは長瀬博彦氏同定である。種の表記・配列は、神奈川県昆虫誌(長瀬, 2004)および日本産有膜翅類目録(寺山, 2004)を参考にした(但し、亜属の表記は省略し、和名に異名がある場合は併記)。☆表示は川崎市未記録の種を示す。訪花植物が確かな場合は併記した。ハチという昆虫の同定困難さを考慮し、正式な記録は標本に絞ったが、訪花植物などの生態観察例で、標本データのない産地を参考記述として示した場合がある。既知の生態情報については、神奈川県昆虫誌・森林総合研究所のWebページ“日本竹筒ハチ図鑑”などを参考にした。

#### 採集品目録

ミフシノバチ科 Argidae

ニレチュウレンジ *Arge captiva* (F. Smith) ☆

1♂ 高津区宇奈根多摩川右岸 2007年7月8日

植栽されたアキニレに集まっていた。関東には自然分布しない樹木だが、街路樹などに使用され、ときに逸出している。幼虫はこれを食樹としているものと思われる。

ハバチ科 Tenthredinidae

コシアカハバチ *Siobla strumii* (Klug) ☆

1♂ 麻生区黒川 2008年4月6日

シロオビクロハバチ *Allantus albicinctus* (Matsumura) ☆

1♂ 麻生区黒川 2008年10月28日

神奈川県昆虫誌の段階では、同定に疑問が残り加えなかったが、珍しい種ではないという(長瀬氏私信)。

ヤセバチ科 Gasteruptidae

オオコンボウヤセバチ *Gasteruption japonicum* Cameron

1♀ 麻生区栗木 2009年8月12日(オミナエシ花)

ハナバチ類に寄生するらしい。神奈川県昆虫誌の学名は、長瀬(2008)により訂正されている。

ツチバチ科 Scoliidae

キンケハラナガツチバチ *Megacampsomeris prismatica* (Smith)

1♀ 川崎区東扇島 2009年10月18日(セイタカアワダチソウ花)

ツチバチ類は、土中にいるコガネムシ類の幼虫を狩ることが知られている。本種は秋季に多く見られ、麻生区・多摩区では普通に見られる。埋め立て地でも得られたことから分布は広いと思われる。近似種ウチダハラナガツチバチは、まだ市内で記録されていない。

コモンツチバチ *Scolia decorata ventralis* Smith

1♀ 多摩区菅仙谷 2009年7月17日(畑のミント花・他複数目撃)

1♂ 麻生区白鳥 2008年8月13日(オミナエシ花・翌年も同じ花で目撃)

盛夏に出現する。神奈川県全体の記録は10例未満で、市内では1932年の柿生の古い記録のみであったが(岩田ほか, 2002), 麻生区では少なくない。このほか筆者は、片平にて道路際に逸出したミントの花で多数目撃し、万福寺さとやま公園にて、オカトラノオの花に來た個体を撮影している。

クモバチ科(ベッコウバチ科) Pompilidae

アオスジクモバチ(アオスジベッコウ) *Paracyphononyx alienus* (Smith)

麻生区黒川(長瀬, 2009)

筆者採集の個体(青少年科学館にあり)であるが既に記録済みである(この文献が川崎初記録)。セイタカアワダチソウの花に來ており、2年続けて同じ場所で観察した。腹部に特徴ある青鈍色の縞模様がある。ベッコウバチ類には、クモを狩るその生態から、最近ではクモバチという呼称が使われているが、本種の獲物は未確認である。

ドロバチ科 Eumenidae

カバオビドロバチ *Euodynerus dantici violaceipennis* Giordani Soika

1♀ 多摩区菅仙谷 2009年7月17日(畑のミント花・複数目撃)

本種は、メイガ・ハマキガ・シャクガなどの幼虫を狩ることが知られている。神奈川県全体の記録は10例未満で、多摩区の記録が見当たらない(長瀬, 2004)。

フカイオオドロバチ(フカイドロバチ) *Rhynchium quinquecinctum fukaii* Cameron ☆ #

1♀ 麻生区片平 2007年8月1日(アベリア花)

本種も、メイガ・ハマキガなどの幼虫を狩ることが知られており、前種より普通である。

カタグロチビドロバチ *Stenodynerus chinensis simillimus* Sk. Yamane et Gusenleitner

1♂ 麻生区白鳥 2007年6月27日

住宅地の道端で採集した。普通種で、ハマキガなどの幼虫を狩ることが知られている。

サイジョウハムシドロバチ *Symmorphus apiciornatus* (Cameron)

1♀ 麻生区片平 2009年4月22日(複数目撃)

ドロバチ類は、大部分の種が、既存孔を泥で仕切って巣を作り、狩りを行い、幼虫の餌として獲物を蓄える。かつての里地には、萱葺き屋根や竹筒といった素材がふんだんにあったが、人家・集落の都市化により、そうした多孔質空間が少なくなり、減少した種は少なくない。本種は、営巣場所として萱葺き屋根を好む。標本の個体は、付近に唯一残った古民家(現在、そば屋として営業)の屋根周辺を飛翔していたものである。雑木林の樹葉上に生息するノミゾウムシ類を狩ることが知られており、付近のグランドの周りに樹林地もあることから、生き残っていたものと思われる。市内では生田緑地(脇, 2003; 長瀬, 2004)と麻生区白山(長瀬, 2009)に最近の記録がある。

アナバチ科 Sphecidae

クロアナバチ *Sphex argentatus fumosus* Kohl

1♀ 宮前区潮見台 2009年8月23日

平坦地に穴を掘って巣を作り、草地などを飛び回り、直翅類を狩ることが知られている。長瀬(2004)にて引用されている脇(2004)の本種の記録で、麻生区柿生他とあるのは黒川のことである。

ミカドジガバチ *Hoplammophila aemulans* (Kohl) ☆

1♀ 麻生区片平修廣寺付近 2008年7月17日

他のジガバチ類と異なり、地表ではなく、樹上や倒木のカミキリムシ類の脱出孔などの既存孔に巣を作り、シャチホコガ類の幼虫を狩ることが知られている。典型的な樹林性の狩獵蜂といえる。

ギングチバチ科 Crabronidae

クララギングチバチ *Ectemnius rubicola nipponis* Tsuneki #

1♀ 麻生区白鳥 2006年7月30日 (オミナエシ花)

タケノグサなどの生きた植物の茎に穴をあけ、中の髓を掘って巣を作ることが知られている (獲物は小型のハエ類などで、Web ページ“長池公園生き物図鑑”には、八王子市内で撮影された珍しい生態写真が紹介されていた)。

ドロバチモドキ科 Nyssonidae

ミスジアワフキバチ *Gorytes tricoloratus* (Pérez)

1♀ 麻生区黒川谷ツ公園 2006年7月7日

ここでの立ち入りと採集は、2006年の川崎市北部公園事務所委託・特定外来生物影響調査の一環として行った。ハチの標本は未発表であったため、今回のデータに加えた。本種は、その名のとおりアワフキムシ類を狩ることが知られている。

フシダカバチ科 Philanthidae

マルモンツチスガリ *Cerceris japonica* Ashmead #

1♂ 麻生区万福寺 2008年8月3日

道路際で採集した。雌は地中に営巣し、小型のハナバチ類を狩ることが知られている。珍しい種ではないが、麻生区では1947年の古い記録しかない (岩田ほか, 2002)。

ムカシハナバチ科 Colletidae

アシブトムカシハナバチ *Colletes patellatus* Pérez

1♀ 川崎区東扇島 2009年10月18日 ; 1♂ 麻生区片平 2007年10月21日 (いずれもセイタカアワダチソウ花)

秋季に出現し、ヨメナ・アキノノゲンなどのキク科の野生草花を訪れ、雌は土中に営巣してそれらの花粉や蜜を集める。最近では郊外の山野にセイタカアワダチソウが繁茂し、この植物は大量の花粉や蜜を供給できるため、実際にはこの花を利用することが多い (雛倉, 2009)。丘陵地に多いが、分布は意外に広く、埋め立て地でも採集された。雛倉(2008b)と雛倉(2009)は、多摩丘陵 (東京都・神奈川県) のハチ類を扱った生態写真記録集であるが、実データや環境写真を伴っており、参考文献として挙げておく。

ヒメハナバチ科 Andrenidae

コガタウツギヒメハナバチ *Andrena tsukubana* Hirashima

1♀ 麻生区黒川 2008年6月2日 (ウツギ花)

初夏、ウツギの花に集まる。雑木林の林縁などに多いが、川崎北部では花があれば住宅地でも見られる。

トゲアシヒメハナバチ *Andrena taraxaci orienticola* Strand ☆

1♀ 麻生区片平修廣寺付近 2009年4月9日 ; 1♂ 麻生区黒川 2009年4月10日 (いずれもカントウタンポポ花)

春季、雑木林や耕作地の路傍に生えるカントウタンポポを訪れる。学名の *taraxaci* はタンポポの意である。雄は雌に先駆けて現れ、晴れた暖かい日、地表すれすれの高度を敏速に飛びまわり、雌を探す。カントウタンポポはその他家受粉をする生態から、自家受粉可能な外来種セイヨウタンポポに駆逐されていると言われている。本種がカントウタンポポの重要なポリネーターになっている可能性があるとするれば、野

生草花を維持するうえで興味深いことだろう。近隣地域では、筆者は東京都の稲城市で多数確認しているが未発表である。

ヤヨイヒメハナバチ *Andrena hebes* Pérez

1♀ 麻生区黒川 2008年4月6日

ヒメハナバチの中でも早い時季に活動する種の一つで、その名のとおり3月から現れ、訪花植物はあまり選ばないようである。

ミツクリフシダカヒメハナバチ *Andrena japonica* (Smith)

1♀ 麻生区はるひ野 2006年7月8日；1♂ 麻生区黒川 2009年7月4日（いずれもタカトウダイ花）  
年に2世代あり、それぞれ春季と梅雨後半の頃現れる。

ウグイスカグラヒメハナバチ（コガタホオナガヒメハナバチ） *Andrena lonicerae* Tadauchi et Hirashima

1♀ 麻生区片平修廣寺付近 2007年3月26日；1♀ 麻生区黒川 2008年4月6日（いずれもウグイスカグラ花）

太平洋側を中心に分布するハナバチで、早春出現し、雑木林の低木層に咲くウグイスカグラの花を訪れる。日本海側には代替種のホオナガヒメハナバチ *Andrena halictoides* Smith が分布しており、こちらはタニウツギを利用することが知られている。両者はかつて同じ種とみなされ、前者が新種として記載された折、川崎市向ヶ丘の標本が使われた（高橋，2005）。

コハナバチ科 Halictidae

アトジマコハナバチ *Halictus tsingtuensis* Strand ☆

1♀ 麻生区片平 2009年8月9日（ミント花）

河原などでの採集例が多いらしいが、今回は、区画整理で家が建ち始めた、空き地の多い住宅地で採集された。

ニッポンチビコハナバチ *Lasioglossum japonicum* (Dalla Torre)

1♀ 麻生区白鳥 2007年6月2日（ウツギ花）

普通種である。

フタモンカタコハナバチ *Lasioglossum scitulum* (Smith)

1♂1♀ 川崎区東扇島 2009年10月18日（セイタカアワダチソウ花）

比較的普通種である。

ミズホヤドリコハナバチ *Sphecodes japonicus* Cockerell

1♀ 麻生区片平 2009年8月9日（ミント花）

普通種で、カタコハナバチ類に労働寄生するらしい。

ハキリバチ科 Megachilidae

シロオビキホリハナバチ（キホリハナバチ） *Lithurgus collaris* Smith ☆ #

1♀ 麻生区片平 2008年7月27日（ムクゲ花）

その名のとおり、枯れ木や木造建造物に孔を掘って営巣することが知られている。盛夏の短い時季に出現し、ムクゲの花を好んで訪れる。筆者は稲城市内に本種の多産地を発見したが（雛倉，2008a）、新百合ヶ丘から黒川一帯で植栽されたムクゲの花を探索した結果、ようやく川崎市内で確認することができた。背後に私有地の残存樹林がある。ムクゲは園芸植物であり、人間が庭木を植え始める以前に、本種が何を利用していたのか不思議なものである。

オオトガリハナバチ（トガリハナバチ） *Coelioxys fenestrata* Smith #

1♀ 麻生区白鳥 2006年9月9日（背後に神社あり）

盛夏から秋に出現し、オオハキリバチ *Megachile sculpturalis* Smith に労働寄生することが知られている（オオハキリバチは、竹筒などの既存孔にヤニで巣をつくる）。神奈川県全体の記録は10例未満で、市内では従来1941年の柿生の古い記録のみであったが（岩田ほか，2002）、現代においても生存していることが判明した。近隣の町田市域には、本種が毎年見られるハギの花があり、この花にはオオハキリバチもよく来る（雛倉，2008b）。

ヒメハキリバチ *Megachile spissula* Cockerell

1♀ 麻生区片平 2009年7月18日

夏季、ハギ・ミントなどの花に比較的普通に見られる。

スミゾメハキリバチ *Megachile sumizome* Hirashima et Maeta #

1♀ 麻生区片平修廣寺付近 2006年6月13日

初夏に出現し、その名の通り黒い（墨色の）体毛に覆われた姿は、ハキリバチの中では特徴的である。本種は雌のみで記載され、ムナカタハキリバチ *Megachile willughbiella munakatai* Hirashima et Maeta と同種の可能性が高いという。

マメコバチ（ヒトツバツツハナバチ） *Osmia cornifrons* (Radoszkowski)

1♀ 麻生区片平修廣寺付近 2008年4月20日；1♀ 麻生区古沢 2009年4月15日（いずれもクサイチゴ花）

早春に出現し、東北地方では果樹の受粉媒介に使用されるハチである（前田，1993）。神奈川県昆虫誌によると、藁屋根やヨシズのような営巣環境が人家周辺にあった時代には多かったが、現代は稀であるとされている。川崎市内には1932年の柿生の記録（岩田ほか，2002）があるのみであり、神奈川県における平野部の最近の記録はほとんどない。しかし、筆者の調査の結果、麻生区内には確実に生息していることがわかった（東京都の稲城市・町田市でも確認しているが未発表）。雑木林や竹藪の周囲に咲くクサイチゴの花に好んで訪れるが、見られたのはほぼ例外なく雌であった（雄は発生初期の短期間にいなくなることも考えられる）。アズマネザサの枯死部など、人為起源でないものに営巣している可能性もあり、どのような場所で現代まで世代を繰り返すことができたのか、大変興味深い。また、川崎北部や稲城などの地元において、ナシなどのバラ科果樹の受粉に本種が使われたことがあるかどうかは、確認できていない。稲城市在住の知人からの聞き込みによると、ハチにとってナシの花はまずいらしく、アブラナなどが咲いているとそちらに行ってしまう受粉効率が悪くなり、ナシ受粉は輸入花粉を使って人手で行われることが多いという。片平の生息地付近は、市の公共緑地として緑が担保されているところもあるが、近い将来、川崎市を南北に縦貫する幹線道路がトンネル構造にて建設予定である。

ミツバチ科 Apidae

ルリモンハナバチ（ナミルリモンハナバチ） *Thyreus decorus* (Smith) #

1♂ 麻生区白鳥 2009年8月9日（オミナエシ花）

空色の鮮やかな紋を持つハナバチで、盛夏から初秋に出現し、スジボソコシブトハナバチ *Amegilla florea* (Smith) に労働寄生する。ナミルリモンハナバチという和名は、砂地に営巣する近似種、ウスルリモンハナバチ *Thyreus centrimacula* (Pérez)（神奈川県からは未記録）と区別するための呼称である。多摩丘陵では各地に残存しているようで、筆者は市内においては、麻生区内の黒川・新百合ヶ丘の中心街（上麻生）（雛倉，2008b）・五力田みはらし公園、高津区の緑ヶ丘霊園などで目撃している。本種は本来、里山の林縁や耕作地近傍に自生する青もしくは紫系統の野生草本の筒状花（アキノタムラソウ・ナギナタコウジュ・ミソハギ・キツネノマゴなど）を好む。しかし、五力田みはらし公園ではムクゲを、新百合ヶ丘や稲城市の城山公園ではアベリア（ハナヅノツクバネウツギ）を利用しており、花の色にこだわることなく、園芸種も吸蜜植物として利用する、可塑性があることがうかがわれる。長瀬(2004)にて引用されている脇(2004)の本種の記録で、麻生区柿生とあるのは原記述を見ると黒川である。

なお、長瀬(2004)にて引用されている脇(2004)の記録に、麻生区黒川のシロスジヤドリハナバチ *Doeringiella ventralis* (Meade Waldo) が載っているが、脇(2004)を調べたが見当たらず、川崎における記録は生田緑地のみになる。筆者が市内で未確認の労働寄生蜂だが、編集時の何らかのミスかもしれない。

コマルハナバチ *Bombus ardens ardens* Smith #

1♂ 麻生区片平 2005年6月7日

都市部にも見られる普通種で、ツツジ類・エゴノキをはじめ、植栽または野生の幅広い花を訪れるが、盛夏には姿を消す。雄は雌と色彩が異なり、初夏の短期間に出現する。麻生区の標本を伴う記録が無いようなので出しておく。

トラマルハナバチ *Bombus diversus diversus* Smith #

1♂ 麻生区黒川 2009年10月10日（駅で死後まもない個体を拾った）

前種より自然度の高い場所に生息しているが、気温の高い時季を中心に市街地でも見られる。多摩丘陵東部で8月以降に見られる黄色いマルハナバチは、本種である。多摩区生田緑地では湿地のツリフネソウによく見られ、筆者は麻生区五力田でキバナアキギリに訪花を確認しているが、一方、新百合ヶ丘の中心街付近や稲城市の城山公園などで、アベリアに複数個体の訪花を観察している（本種のような舌の長い種は、筒状の花を好む傾向がある）。

## 考察

今回の記録種はわずか34種であるが、そのうち8種は川崎市未記録であり、そのほかにも戦後の記録がない種が複数含まれる。写真同定容易なスズメバチ・アシナガバチ類は、標本をとっておらず今回割愛したが、文献を見ると記録が生田緑地だけで麻生区の記録を欠いていたりし、ハチ類の分布情報があまりに粗いこと、普通種も含めて広く記録を集める必要性を感じた。

続いて、今回の記録種の特徴をその生態から検討する。

春季の里山に出現し、特定の植物と蜜や花粉の資源をめぐる結びついている種が3種認められた（トゲアシメハナバチ—カントウタンポポ；ウグイスカグラヒメハナバチ—ウグイスカグラ；マメコバチ—クサイチゴ）。同様な組み合わせは、初夏や盛夏に出現する種にも認められる場合がある（コガタウツギヒメハナバチ—ウツギ；シロオビキホリハナバチ—ムクゲ）。また、秋の10月以降に出現し、特定の科の植物と結びついている種が1種認められた（アシプトムカシハナバチ—キク科）。特に、春季出現する上記3種は、気温が低い時季に活動することもあつたか、人為的要素の強い都市環境には出現せず、環境変化には弱いと推察される。また、里山の昆虫の印象が強いルリモンハナバチやトラマルハナバチも、それほど遠くない場所に発生源があれば、人工植栽や都市的環境の花に出現することがある。このほか、栽培起源で逸出草花であるミント類の花では、夏季に多くの種を採集した（香りに強い誘引作用がある可能性がある）。

花以外の環境に注目すると、サイジョウハムシドロバチが萱葺き屋根で確認され、日本古来の里地の構造物と、ハチ類の関係を示すうえで特記すべき記録である。ニレチュウレンジはアキニレで確認され、造園移入樹木とハチ類の関係を示すうえで特記すべき記録である。また、草地の直翅類を幼虫の餌として狩るクロアナバチや、樹林に営巣しシャチホコガ類の幼虫を狩るミカドジガバチは、特定の環境において生態系の上位を占める昆虫として注目すべき種である。

## 結言

川崎市内から34種のハチ類を記録し、それらの送粉者—植物関係や捕食者としての位置・営巣環境についてふれた。今回の報告は筆者の居住地である麻生区の記録が大部分で、市内の全貌を語るにはほど遠いが、普通種も含め、同定者の労をねぎらう意味でも、標本のあるものは広く紹介してみた。他の分類群に比べて既存の調査が粗いため、今後とも未知の種や生態が見出される可能性が高い。都市化の進んだ川崎市内で、多種多様なハチ類が観察可能な環境が将来も残ることを願い、ここに筆をおきたい。

## 謝辞

同定でお世話になり種々のご教示を頂いた、鎌倉市在住の長瀬博彦氏、および、文献入手に便宜を図って頂いた、八王子市在住の高橋秀男氏に感謝申し上げます。

## 参考文献

- 前田泰生, 1993. マメコバチを利用したリンゴの受粉. シリーズ地球共生系4, 花に引き寄せられる動物—花と送粉者の共進化. 平凡社, 東京: 195-232.
- 長瀬博彦, 2004. ハチ目(アリ科を除く). 神奈川昆虫誌Ⅲ, 神奈川昆虫談話会, 小田原: 1241-1326.
- 長瀬博彦, 2008. 神奈川昆虫誌(ハチ目), 補遺—2. 神奈川虫報(161): 1-10.
- 長瀬博彦, 2009. 神奈川昆虫誌(ハチ目), 補遺—4. 神奈川虫報(167): 37-52.
- 雛倉正人, 2008a. 東京都稲城市で採集した昆虫類(第2報). 神奈川虫報, (162): 11-22.
- 雛倉正人, 2008b. 南多摩蜂類写真館2, 2. 多摩のよこやまの夏空の—街と庭園の蜂類—. つねきばち(14):

29-33.

雛倉正人, 2009. 南多摩蜂類写真館 3, 3. 走り抜けるいきもの達の秋—虫と植物と文明のはてしない物語—.  
つねきばち (15) : 45-47.

岩田芳美・長瀬博彦・脇一郎・中島秀雄, 2002. 中山周平氏所蔵標本目録. 川崎市青少年科学館紀要 (13) : 119-131.

高橋秀男, 2005. 関東地方のウグイスカグラヒメハナバチ. 埼玉動物研通信 (49) : 7-10.

寺山守, 2004. 日本産有剣膜翅類目録. 日本蟻類研究会紀要 (2) : 1-123.

脇一郎, 2003. 川崎市生田緑地でのハチ目昆虫の採集記録. 川崎市自然環境調査報告 V (CD-ROM) : 218-232.

脇一郎, 2004. 川崎市生田緑地他でのハチ目昆虫の採集記録, 追加と訂正. 川崎市青少年科学館紀要 (15) : 23-30.

参照URL

独立行政法人森林総合研究所, 日本竹筒ハチ図鑑<<http://www.ffpri.affrc.go.jp/labs/seibut/bamboohymeno/index-j.htm>>, 2010/7/1

長池公園生き物図鑑<<http://biodb.i.hosei.ac.jp/nagaike/>>, 2010/7/1

## 著者紹介

雛倉正人：特定非営利活動法人かわさき自然調査団 昆虫班・水田ビオトープ班

